

2024年5月1日発行
第635号(通算)
発行:奇数月1日
会員購読料:1月10円(年間60円)
一般購読は別途送料

環境と健康

発行者

一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~
広島県環境保健協会

佐藤 均
広島市中区広瀬北町9番1号
郵便番号 730-8631
電話 082-293-1511番
振替口座01380-2-27511
URL http://www.kanhokyo.or.jp/

公衛協相互の情報交換の場 尾道市で体験交流研修を開催

2月22日に、公衛協相互の情報交換の場である「体験交流会」が開



尾道市公衛協オリジナルのフレイル紙芝居の上演(上)、体力測定メニューの体験(右上)、体験したプログラムを振り返り交流する参加者(下)

催のきっかけづくりを目的に、当協会主催の体験交流研修を開催しました。本研修は今回初めて企画したもので、活動内容の豊富さが県内トップクラスである(公社)尾道市公衆衛生推進協議会を、8公衛協から21人が訪問しました。

午前中は、主に尾道市公衛協で実施している環境づくり・健康づくり事業と組織体制について紹介いただきました。いずれも、行政や他団体と連携しながら実施されており、地区単位でも活発な活動が行われていました。これらの事業を展開するためには、事務局機能が充実していること、事務局と各地区との連絡・調整が密に行われていることなどが挙げられます。そのいずれも達成している尾道市公衛協に、参加者は感心しきりでした。

午後からは、尾道市公衛協オリジナルの「フレイル紙芝居」が上演され、フレイル予防に関心を持たせた後、各地区のイベントなどで実施している体力測定メニューを体験しました。握力や足指力、膝間力など、フレイルの原因ともなる筋力量を測定しました。測定結果が印刷されたシートをもらい、研修全体の

振り返りを行うと、研修を終了しました。参加者からは「尾道市公衛協は素晴らしい。自分たちもできるところから始めたい」「こういふ研修は、継続して実施してほしい」など、高い評価をいただきました。また、参加者同士で話し合い、令和6年度に交流会を企画した公衛協もありました。

地域支援課では、令和6年度も体験交流研修を企画・実施します。この機会を活用し、他の公衛協の好事例を学び、我が公衛協の活性化を図っていきましょう！
(地域活動支援センター)

識者を交えた防災井戸事業 持続可能な運用方法を協議

このシリーズでは、他の公衛協の活動を知り、今後の公衛協活動に活かしてもらうことをねらいに、公衛協の実践活動を取材し、取り組みの工夫や秘訣、時には失敗談などを紹介していきます。

平成30年7月豪雨を受けて、環保協・公衛協では、防災の取り組みの必要性を検討して

きました。令和2年、福山市公衛協が音頭となり、竹尋学区で自治会・福山市立大学・環保協が連携した防災井戸のモデル事業がスタートしました。

目指したのは、識者の助言を取り入れ、自治会で持続可能な防災井戸事業とすることで、福山市立大学の堤教授

から、①避難所からの距離や井戸へのアクセス、利用度や水量などから優先井戸を定めること、②水質によって生活用水の中でも、「清掃」「洗濯」「風呂」などに仕分けできること、③下水も考慮することなどの助言をいただきました。

町内会ごとに優先井戸を設定し、「環境と健康のコミュニティ活動助成金」や環境・健康募

金を活用して、水質検査を行ったり、ポンプ、タンクなどを整備しました。

運用ルールを協議する中で、防災井戸は一般公開とせず、避難所と町内会長が町内の防災井戸の情報を管理することとし、井戸マップと井戸の位置や写真・注意事項を記した個票を作成しました。また、自治会が定めるスタッフ

が避難所に設置するタンクに井戸水運び、その水を被災者が生活用水として利用することにしました。

読者の皆さまから、我がまちの公衛協活動の特色・ウリなどの取材依頼をお待ちしております。

広島サッカーの奇跡

「レジーエンズ、ゲーテの言葉を借りれば「メタモルフォーゼ」、そして最近の言葉では「クオントムリフ(量子的飛躍)」とも呼べるものではないか▼日本代表監督 森保一さんも、「ついで」とはあると思う。サンフレッチェ初優勝年の最大のライバルは、震災翌年のベガルタ仙台だったと、悲劇を乗り越えたチームの強さを、しみじみ語りました。

(株式会社サンフレッチェ広島 代表取締役社長 仙田信吾)

琴線歌

エディオンピースウィング広島は開幕以来、満員の盛況が続きます。広島に新たな感動拠点が生み出されました▼サッカー

1 王国広島には奇跡の記録があります。被爆のわずか2年後、広島高等師範学校附属中学校が全国中学校蹴球大会で優勝したのです。校舎は倒壊、グラウンドは芋畑を整地し直し、ボールは一個か二個しかなく、しかも皆が被爆者でした。東洋工業は、1965年の日本リーグ初年から4連覇を果たします。そして1968年のメキシコ五輪の銅メダル獲得時、日本代表18人中6人が広島、監督も広島出身の被爆者 長沼健さんでした▼



一般財団法人 ~みんなの生命をまもりつづけたい~ 広島県環境保健協会

〒730-8631 広島市中区広瀬北町9番1号(広島県公衆衛生会館)
TEL:082(293)1511 [大代表] FAX:082(293)1520

基本理念 みんなの生命(いのち)をまもりつづけたい。
私たちは、健康づくりと住みよい環境づくりに取り組み、持続可能な社会の発展に貢献します。



地域コミュニティ活動の活性化へ

専門研修の大幅リニューアルなど

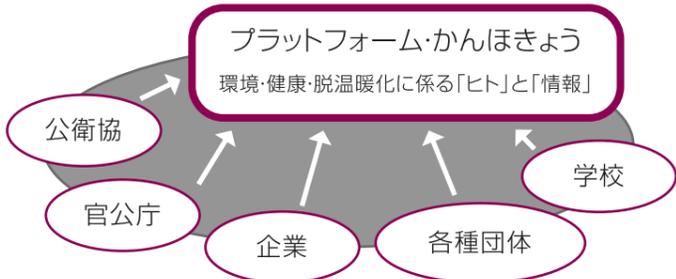
地域活動支援センター・脱温暖化セン

ター・ひろしまは、環境協の公益事業部門として、公衆衛生推進協議会(以下、公衛協)を主体としたコミュニティにおける健康づくり、環境づくりの支援を行っています。昨年度からスタートした第2次経営ビジョンの2年目となる令和6年度は、「元気で活発な地域コミュニティが県内の各所にできるよう、時代に沿った、コミュニティの環境保健に係る組織的実践活動を支援すること」

を事業方針に掲げています。そして、プラットフォーム「かんほきょう」の効果的な活用により、さまざまな人や組織を融合させることで幅広い事業を展開し、地域コミュニティ活動の活性化を図ることを目指して取り組みを進めていきます。この実現に向けて、今年度は主に以下の点について重点的に取り組みます。

①プラットフォーム「かんほきょう」の展開

当協会がこれまで



【プラットフォーム「かんほきょう」とは】
元気で活発な地域コミュニティを実現するために、「ヒト」と「情報」をコーディネートしながら、ニーズの把握とシーズを提供。「個と個・個と組織・組織と組織」を繋ぐほか、「コミュニケーションが可能な仕組み」を兼ね備えたプラットフォーム(ネットワークの基盤)のこと。

②専門研修のリニューアル

専門研修を、より公衛協の活動に役立てることができるよう内容にするための見直しを行い、今年度は、「水辺教室の開き方」「効果的な広報の仕方」「防災・減災」「我がまちの魅力発見」の4つのテーマで実施します(開催日時会場については6面参照)。

③「デコ活」の推進

照。

脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動の愛称「デコ活」につながる取り組みとして、地域の状況に応じた新たな脱炭素メニューを開発し、運用に向けた取り組みを進めていきます。



過去開催した専門研修の様子「水辺・海辺教室指導者養成コース」(中)、「防災・減災コース」(中)、「デコ活」のロゴマークと取り組み例(下)



「第62回環境保健夏季大学」は、昨年度実施したアンケート結果などを参考に、今年度は日帰り2日間の研修を広島市内で7月18日(木)・19日(金)に開催する予定です。また、「第65回広島県公衆衛生大会」は、11月22日(金)に竹原市の竹原市民館での開催に向けて準備を進めています。

そのほか、全県共通事業重点メニューとして「STOP!フレイル事業」や「食品ロス削減事業」など多彩な事業を展開し、元気で活発な地域コミュニティが県内の各所にできるよう、取り組みを進めてまいります。

「全国牡蠣-1グランプリ」に協賛 当協会は衛生教育を実施

環境協

2月23日、24日の二日間、東京都の豊洲市場で一般社団法人全国牡蠣協議会主催の「全国牡蠣-1グランプリ」が開催されました。北は北海道、南は九州と全国の44生産者が、自ら育てた牡蠣を持参し、おいさを競い合いました。



当協会が衛生教育を実施

当協会は本グランプリの協力機関として、牡蠣の安全性検査、生産者や当日の調理に携わるなど関係者を対象に、衛生教育を実施しました。

本グランプリは予選会そして本選を経て、おいしい牡蠣が選ばれます。審査員には、服部学園理事長の服部幸應先生や ANA クラウンプラザホテル広島 総料理長の澤村収ニシェフなど、多くの食の専門家をお招きし、審査されました。

今年グランプリに選ばれたのは「生食部門」では兵庫県産の牡蠣、

「加熱部門」では岡山県産の牡蠣でした。広島県産の牡蠣も加熱部門では準グランプリに選ばれるなど、健闘していました。

大会の最後に、主催者代表の門林水産(広島県江田島市)の門林氏より、「来年も開催できるように取り組んでいきます。」との力強い声とともに今年のグランプリが幕を閉じました。

本大会は牡蠣のおいさを競うだけではなく、全国の生産者の横の繋がりを広げていく会であったと感じた二日間でした。

大会後、関係者から食中毒などの健康被害はなかったとの連絡をいただきました。来年も事故のないグランプリ開催を目指して、当協会も協力していきたいと思ひます。



出品された牡蠣を見る参加者

(食品衛生課 和田 貴臣)

第65回地区衛生組織活動資金募集(環境・健康募金)事業スタート

地域の「環境づくり」「健康づくり」の財源に

ご理解・ご協力をお願いします

今年度で65回目を迎える地区衛生組織活動資金募集(通称:環境・健康募金)は、「私たちの地域は私たちの手で」という思想のもと、地域ぐるみの公衛協活動を行うための活動資金を集めるものです。



に活用されています。公衛協の活動内容は市町によって異なりますので、詳細は各市町公衛協事務局にお問い合わせください。

環境協配分金は、全県共通事業重点メニューの活動支援グッズの作成、公衛協のリーダーを養成する各種研修の開催、公衆衛生推進手帖の作成、学習教材の貸し出しなどに活用しています。

事務費配分金は、募金事業をスムーズに進めるためのPR用ポスターやチラシ、募金回収袋の作成、振り込み手数料などに充てられます。

みなさまからお預かりした募金は、市町の公衆衛生活動のために使われ、地域の「環境づくり」と「健康づくり」に役立てられます。

公衛協が継続して活動するため、募金の主旨をご理解いただき、ご協力をお願いします。(地域活動支援センター)

昭和35(1960)年2月の広島県公衆衛生大会で、世界保健デー(4月7日)を「健康感謝の日」と定め、毎年募金活動を実施しています。

市町の公衛協が集めた募金は、地区衛生組織活動資金募集委員会で集計し、市町公衛協、環境協、事務費に配分され、公衆衛生活動に役立てられます。

市町公衛協に配分された募金は、「ごみ減量・リサイクル事業」「地域清掃・美化活動」「脱温暖化事業」などの環境づくり事業、「フレイル予防事業」「ウォーキング」「食育」などの健康づくり事業



住民にニーズを聞いて歩く災害ボランティアセンター職員 (2020 熊本地震)

災害ボランティアセンターとは② ニーズ把握の難しさ

被災者のニーズは、被災地域から直接的に災害ボランティアセンターに伝わるのではなく、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。

能登半島地震から4カ月が経過しました。現地では復旧に向けた努力が続いています。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。



氷見市災害ボランティア・支えあいセンター開設のお知らせ
令和6年1月5日(金)より
受付時間 10:00~16:00 (土・日・祝日も含む)
問合せ先 氷見市災害ボランティア・支えあいセンター
相談専用ダイヤル [090-5687-2202]
[090-5687-2203]

災害ボランティアセンターの開設をお知らせするチラシ (2024 能登半島地震)

被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。

被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。被災者のニーズは、被災者の家族や地域から伝わる。



お済みですか？ 狂犬病予防接種 犬からのまん延を防ぐ

ひろしま 気候変動適応センター ⑫生物への影響



シダの葉裏で待ち伏せるマダニ

気候変動による気温上昇、冬季の積雪減少は、さまざまな生物に影響を与えています。例えば中国山地では、ニホンジカの分布域の拡大が確認されています。

マダニの感染リスクが増加
肌の露出を少なくすることが重要

節足動物のうちマダニは、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱を媒介することがあります。マダニは、ネズミ、イノシシ、シカなど、吸血源の野生生物がいる場所に生息しています。

マダニと人の接触機会が増え、感染リスクの増加に繋がるおそれがあります。今年もそろそろ過ごしやすい気温となり、レジャーや農作業など、屋外での活動機会が増えてきます。

病原体の存在
媒介生物・吸血源の存在
人への感染機会の存在
ダニ、蚊、哺乳類(ネズミ、イノシシ、シカなど)が生息している

マダニと人の接触機会が増え、感染リスクの増加に繋がるおそれがあります。今年もそろそろ過ごしやすい気温となり、レジャーや農作業など、屋外での活動機会が増えてきます。

狂犬病予防接種期間です。犬の飼い主の皆さま、今年の狂犬病予防接種はお済みですか？

狂犬病は、人を含め、すべての哺乳類に感染し、人も動物も発症します。世界中で狂犬病に感染する人の9割以上が犬から感染している事実から、飼い犬に狂犬病予防接種を受けさせて、犬からのまん延を予防することが、人への被害を防ぐ上でとても大切なことです。

狂犬病は、人を含め、すべての哺乳類に感染し、人も動物も発症します。世界中で狂犬病に感染する人の9割以上が犬から感染している事実から、飼い犬に狂犬病予防接種を受けさせて、犬からのまん延を予防することが、人への被害を防ぐ上でとても大切なことです。

昭和31年以降、国内の発症はありませんが、こうした理由から日本では飼い犬への狂犬病予防接種を義務づけています。

忘れないうでね！
狂犬病予防接種！
法律上大切な飼い主
昭和三十二年以降、国内の発症はありませんが、こうした理由から日本では飼い犬への狂犬病予防接種を義務づけています。



遊びながら楽しく遊ぶ 若い世代への意識啓発に



地球温暖化は世界で大きな問題となっており、その原因となる温室効果ガスの削減は大きな課題です。そのため、2050年に温室効果ガスの排出を実質ゼロにする「カーボン

ニュートラル」の実現が目標となつていいます。当協会では、楽しく遊びながらカーボンニュートラルの仕組みや考え方について学べる教材として、「カーボンクエスト」を80セット整備しています。本教材は、CO₂を減らすための技術や工夫が書かれている「CO₂削減カード」、広島企業のCO₂削減に向けた取り組みが書かれている「企業カード」、ゲーム性を高める「便利カード」を駆使して、ドラゴンが排出したCO₂と同量の削減(＝カーボンニュートラル)を目指します。



カーボンクエスト(上)、カーボンクエストで遊ぶ子ども達(下)

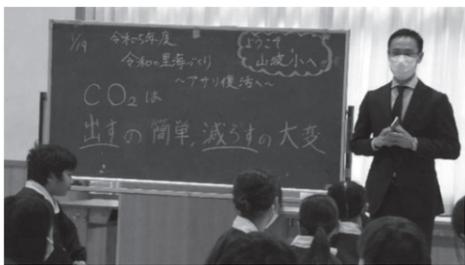


※「カーボンクエスト」は一般社団法人広島青年会議所より寄贈いただきました。

各カードには、カードの内容に関するCO₂の排出・削減についての情報が書かれています。カードゲームで遊んだ後に振り返りとして確認することで、遊ぶだけで終わらず、CO₂の排出・削減につながる行動について学習することができます。

活用例の紹介

1月19日に、ひろぎんエリアデザイン株式会社尾道市の小学校5年生を対象に実施し



里海づくりがテーマの環境講座

た、里海づくりがテーマの環境講座で「カーボンクエスト」を活用しました。講座のポイントとして、ドラゴンが出すCO₂量は大きいのに対して、「CO₂削減カード」などで削減できるCO₂量は小さいことから、CO₂は「出すのは簡単だが、減らすのは大変」ということなどを伝えました。

体験した児童はゲームを楽しみ、自分ができるCO₂削減の取り組みについて考える機会となりました。

GSHP 海ごみイベント

チーム対抗で清掃活動

GPS機能を活用したクイズラリー

3月17日(日)、GSHP(広島県)の主催で「エディオンピースウイング広島周辺まちなか清掃活動」が開催され120人が参加、当協会も参加しました。参加者には、スポーツウェアなどを回収してアップサイクルしたオリジナル軍手(サンフレッチェ広島とのコラボデザイン)がプレゼントされました。



そごう広島店ではペットボトルキャップアートの製作ブースなどが展開された

清掃活動は1チーム5人以内のチーム対抗で行われ、クイズラリー(全5問、1問正答で5ポイント)と回収したごみの量(10gで1ポイント)でポイントを算出、順位付けが行われました。クイズラリーはスマートフォン

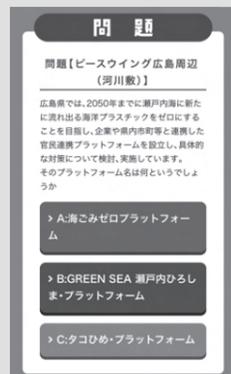
のGPS機能を活用し、チェックポイントの周辺に到達するとクイズに解答できるといしくみで実施され、海ご

み問題やプラスチックごみに関するクイズが出題されました。約1時間の清掃活動で69.34kgのごみが回収され、大きなものでは、炊飯器や自転車のサドル、ヘルメットなどが回収されました。なお、1位のチームはクイズを5問正解、約8.5kgのごみを回収し、表彰式でサンフレッチェ広島アンバサダー森崎浩司さんより選手のサイン入りユニフォームが手渡されました。参加者からは「街中でもこんなに多くのごみが落ちていたことに驚いた」という声が多くありました。

また、清掃活動と併せて、そごう広島店ではペットボトルキャップの回収およびペットボトルキャップアートの製作、海ごみ問題やペットボトルのリサイクルについて学ぶことができるブースが設置され、来館者が海ごみ問題について知るきっかけづくりが行われました。

当協会では、引き続き清掃活動などの事例を紹介してまいります。

(地域活動支援センター)



クイズラリーのスマートフォン画面(上)、120人が参加し、約70kgのごみを回収した(下)

子どもにとって理解が難しい問題でも、ゲームを通じてより主体的に考えることができます。地球温暖化防止や省エネに関する学習会などで、「カーボンクエスト」を活用し、若い世代への意識啓発のきっかけとしてみてはいかがでしょうか。

(地域活動支援センター)

環境協の環境生活センター

37 環境計画課

廃棄物処理施設のコンサルティング

検討を繰り返し、地域社会の安全・安心へ

私たちの暮らしや、事業活動に伴って、日々さまざまな種類のごみ(廃棄物)が出ます。出たごみは法律に基づいて

適正な処理が必要で、環境生活センター環境計画課では、ごみの適正処理に向けたサポートをするため、大きく

2つの業務を実施しています。一つ目は、廃棄物処理施設の設置を計画する

市町への支援で、ごみをどのように処理するかを定める基本計画や災害時に対応する処理計画から、ごみ処理施設の設計や適地選定、建設工事の施工監理まで

コンサルティングしています。施設を適正に運営や延命化するための精密機能検査や、運営

焼却施設の解体計画や、最終処分場の廃止確認調査まで幅広く実施しています。

二つ目は、生活環境を保全するため、施設を設置するために必要な調査を実施しています。廃棄物処理施設には、ごみを燃やすための焼却施設やごみを資源化するためのリサイクル施設、最終処分場などさまざまです。これら施設の設置にあたっては、

環境計画課では施設建設専門の技術者と、環境影響評価専門の技術者との間で、日々検討を繰り返し、環境に配慮した施設計画を提案することにより地域社会の、安全・安心な暮らしを守るため貢献していきます。

環境を調査し、設置後、環境に影響がないかを予測・評価し、可能な限り環境への負荷低減を図るための措置を事業者に提案しています。また、地元住民の意見に耳を傾け、地域特性を考慮した調査を計画し、事業者とともに地元

に受け入れられる施設計画を目指しています。

(環境計画課 田中日出夫)

画像診断の精度向上

最新鋭の胸部デジタルX線検診車導入

健康科学センター



新たに配備された検診車(上)、空調・換気に配慮した個室(左下)、最新の設備を備えた撮影室(右下)

最新鋭の胸部デジタルX線装置を搭載した検診車が4月18日(木)、一般財団法人広島県環境保健協会(予防医学事業中央会広島支部)に配備されました。

この検診車は、一般財団法人日本宝くし協会(東京都千代田区)が実施する社会貢献広報事業の助成を受け、公益財団法人予防医学事業中央会(同新宿区)が整備し、同支部へ配車されたものです。

検診車に搭載した最新鋭のX線装置には、従来以上にX線画像を精密に表示するための自動検出器と、より高度な画像処理技術が採用されています。これにより、画像診断の精度が大きく向上しました。

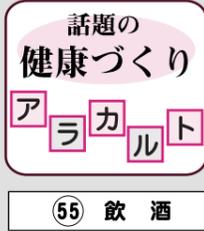
検診車は、主に巡回健診で使用します。巡回健診とは、お仕事の都合や遠方の事業所など、健診施設に足を運ぶことができない事業所のため、健診機関が事業所や公共施設などに出向いて行う健康診断のことです。

今回の配備により、巡回健診における肺がん検診実施体制の強化と検査精度の向上を実現することができました。当協会は、この検診車を十分活用し、肺がんなどの胸部疾患の早期発見、早期治療に貢献いたします。

引き続き、良質な巡回健診を広島県の皆さまに提供する一方で、県民の健康維持・増進と健康寿命の延伸の実現に寄与します。

国内初のガイドライン ～純アルコール量で把握へ～

2024年2月19日、厚生労働省は飲酒に伴うリスクに関する知識の普及推進を図るために「健康に配慮した飲酒に関するガイドライン」を公表しました。



日本酒約1合、ウイスキー60ml ダブル1杯程度に相当します。

ガイドラインでは、病気ごとにどの程度飲酒すると発症リスクが高まるかが示されています。例えば、脳

梗塞の場合は、男性は300g/週以上、女性は75g/週以上飲酒すると発症リスクが高まります。ただし、高血圧や女性の出血性脳卒中は、たとえ少量であっても飲酒自体が発症リスクを高めます。また、がんでは、男性の胃がんや食道がんは少量の飲酒でもリスクがあり、大腸がんや肝がん、前立腺がん、乳がんのリスクも示されています。

お酒は生活に身近なもので、コミュニケーションの助けになったり、ストレスを一時的に和らげてくれます。飲み方の目安を知り、健康に配慮した飲酒を心掛け、お酒と上手に付き合っていきましょう。

純アルコール量は、「摂取量(ml) × アルコール濃度(度数/100) × 0.8(アルコール比重)」で算出できます。例えば、ビール500ml(5%)の場合、500(ml) × 0.05 × 0.8 = 20(g)となります。他にも純アルコール量20gは、酎ハイ350ml(7%)、

日本酒約1合、ウイスキー60ml ダブル1杯程度に相当します。ガイドラインでは、病気ごとにどの程度飲酒すると発症リスクが高まるかが示されています。例えば、脳梗塞の場合は、男性は300g/週以上、女性は75g/週以上飲酒すると発症リスクが高まります。ただし、高血圧や女性の出血性脳卒中は、たとえ少量であっても飲酒自体が発症リスクを高めます。また、がんでは、男性の胃がんや食道がんは少量の飲酒でもリスクがあり、大腸がんや肝がん、前立腺がん、乳がんのリスクも示されています。

お酒は生活に身近なもので、コミュニケーションの助けになったり、ストレスを一時的に和らげてくれます。飲み方の目安を知り、健康に配慮した飲酒を心掛け、お酒と上手に付き合っていきましょう。

(健康支援課 大坪 沙織)

〈健康に配慮した飲酒の仕方〉

- ・自らの飲酒状況などを把握する
- ・あらかじめ量を決めて飲酒する
- ・飲酒前または飲酒中に食事をとる
- ・飲酒の合間に水(または炭酸水)を飲む
- ・一週間のうち、飲酒をしない日(休肝日)を設ける
- ・アルコール濃度(度数)を減らす
- ・ノンアルコール飲料を活用する



香りの効能

気分を変えたい時にも

嗅覚は、五感の中でも普段あまり意識していない感覚だと思えます。

最近になって、香りを認識する嗅覚受容体は約400種類もあり、嗅覚受容体遺伝子は、全ての遺

伝情報の中で最も大きな集団であることが分かりました。また香りの情報は、第一脳神経である嗅

神経を通して脳の中枢に瞬時に届けられます。体の仕組みを見ていくと、嗅覚は生体にとって非常に重要な機能に位置づけられていることが分かります。

漢方薬には、独特の香りがあります。構成生薬には精油を含む芳香性生薬が多く、消化促進作用や気を巡らせる作用などがあります。一般的な飲み薬は、効果を感じるまでに30分程度かかります。漢方薬の服用直後に効果が感じられる場合、香りの嗅神経を介した作用だと思われます。



漢方薬に配合された芳香性生薬の中で、身近なものとしては、薄荷(ハッカ)、生姜(ショウキョウ)、桂皮(ケイヒ・シナモン)、蘇葉(ソウヨウ・しそ)、艾葉(ガイヨウ・よもぎ)、

陳皮(チンピ・みかんの皮)などです。また黒文字(クロモジ)は古くから民間療法や楊枝に使用されてきた香木ですが、精油に抗菌や抗炎症、鎮静など多様な効能が確認され注目されています。すぐに効果を感じられる香りの利用は、気分を変えたい時や眠れない時などに適しています。

近年、増加している化学物質過敏症の人は、嗅覚過敏になりやすく、強い合成香料に苦しんでいます。匂いのある空間には、必ず何かの化学物質が漂っています。匂いの感じ方は人によって差が大きいため、周りに配慮しながら香りを生活にうまく取り入れたいです。

漢方薬には、独特の香りがあります。構成生薬には精油を含む芳香性生薬が多く、消化促進作用や気を巡らせる作用などがあります。一般的な飲み薬は、効果を感じるまでに30分程度かかります。漢方薬の服用直後に効果が感じられる場合、香りの嗅神経を介した作用だと思われます。

(健康科学センター 診療所長 武生 英一郎)

尾道市栗原地区公衆衛生推進協議会

厚生労働大臣表彰を受けて

尾道市栗原地区公衛協が、生活衛生や健康増進の取り組みで厚生労働大臣表彰を受賞されました。受賞にあたり、取り組み内容や今後の思いについて伺いました。



水辺教室の様子

第一回門田川水辺教室は、昭和59年8月19日に実施されました。先輩方からは、昔はこの川で水遊びをし、川にはカニやウナギ、ドジョウ

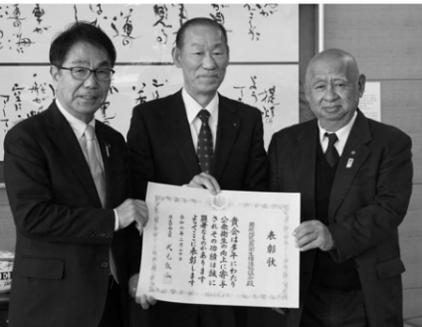
庭排水などで川が汚染され、「ふるさとを流れる門田川が危ない」との切実な思いから、公衛協・町内会・市が連携して川の環境を守ろうと、川に炭を入れたり、浄化作用のある

やメダカなどたくさん生き物がおり、夏には、家の中まで入って来るほどホタルが飛んでいたと聞いています。高度経済成長期、家庭排水などで川が汚染され、「ふるさとを流れる門田川が危ない」との切実な思いから、公衛協・町内会・市が連携して川の環境を守ろうと、川に炭を入れたり、浄化作用のある

水草を植える活動が始まりました。以来今年で40回目を迎えます。昭和59年広島県地区衛生組織連合会(現環境保協)の提唱もあって、身近な川の環境を知る手法として、水生生物を用いた水質の調査を、近隣の小学校児童による体験学習「ふるさと水辺教室」として今日まで継続しています。この活動は、地元

はもちろんです。学区内地域の環境指導員ほか多くのの方々によって支えられてきました。この体験学習を経験して大人になつた子どもたちには、大いに良い影響をもたらすことと思います。何気ない日常の中で自然環境は着実に変化しています。今後、私たちの住むふるさとをより良い環境とすべ

く、かつての諸先輩の熱い思いを継承しながら未来へしっかりと繋げていきたい。そう決意しています。(門田町内会長・栗原地区公衆衛生推進協議会会長 加納康平)



左から平谷尾道市長、加納栗原地区公衛協会長、村上尾道市公衛協理事長



課題解決と事業成長の両立 プラ削減や再エネの導入など

今回は、「カルビー株式会社」の環境に配慮した取り組みを紹介します。

「カルビー株式会社」は広島発祥の食品メーカーです。代表商品の「ポテトチップス」や「じゃがりこ」など、原材料のじゃがいもが、気候変動や温暖化により品質・収穫量の低下を伴えば、事業に大きな影響を与えることから、社会・環境課題の解決と、事業の成長の両立が重要として、CO2削減に取り組まれています。

具体的な取り組み例としては、包装容器サイズの縮小化、パッケージフィルム自体の薄膜化など、プラスチック使用量を削減することで、CO2排出量を削減しています。



熱心に聴講する参加者

また、清原工業団地(栃木県宇都宮市)にある工場は、天然ガスを燃料に発電し、エリア内にある企業の事業所間で熱・電力の需要と供給を最適化したスマートエネルギーネットワークに参画しています。事業所間の連携により最適化を追求し、独自のインフラで、エネルギーロスが少ない取り組みです。

広島では、再生可能エネルギーや循環型エネルギーシステムの導入により、環境負荷を低減した新しい工場を建設中です。広島みやじま工場では、工場見学を実施しています。詳しくはホームページをご覧ください。

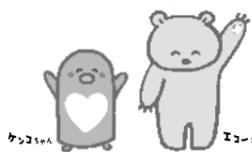
地球温暖化対策地域協議会「エコINNくろせ」は、今年度の総会と併せてカルビーの環境への取り組みについて講演会を実施しました。企業の取り組みを知ることは、環境問題を学ぶとともに、企業の応援にも繋がります。皆さんの地域でも、企業の取り組みを聴く機会を持つてみてはいかがでしょうか。

(脱温暖化センターひろしま)

令和6年度 専門研修の開催のご案内

Table with 3 columns: 研修名, 日時, 会場. Includes courses like '水辺教室の開き方コース', '効果的な広報の仕方コース', '防災・減災コース', '我がまちの魅力発見コース'.

令和5年度 地区衛生組織活動資金募集



通称 『環境・健康募金』

環境・健康募金(旧 健康感謝募金)は、昭和35年から実施し、令和5年度で64回目を迎えました。集まった募金は、募金委員会によって適正に配分され、各市町公衛協の活動資金として、地域社会に役立てられています。

環境・健康募金 総額(円)

45,886,397円 (令和5年度年間実績)



環境協に配分された募金は、以下のような事業に活用しています。

【食品ロス削減事業】

脱温暖化・快適な環境づくりの一環として、「食品ロス削減(2000年度と比べて、2030年度に半減)」を目的に、食品ロス削減に取り組む公衛協を支援します。

クイズで学ぶ食品ロス

クイズを楽しみながら、食品ロスについて学習することができます。

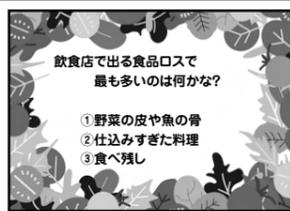


Table with 3 columns: 市町名, 募金額(円), 対前年実績比(%). Lists municipalities like 北広島町, 安芸高田市, etc.

市町別一覧表

※この表は、各市町公衛協の令和5年度年間実績額を記載しています。ご協力ありがとうございました。